

施策	81	交流による高付加価値化・国際化の推進	政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり
施策主管課	企画課	課長名	松尾 聡	内線	2220
政策担当部長名	総合政策部長 今村和男				
施策関係課名	リニア推進課、文化会館、広報情報課				
重点施策	関連計画	リニア将来ビジョン、三遠南信地域連携ビジョン			

1 施策の目的

目的	対象	市民・行政
	意図	飯田市や自分に無い知識や情報に触れ、相手にない情報を発信する市の付加価値を高め、国際化に対応していく

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	見込み28年度
住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	102,000
成果指標	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標28年度
成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏除く)	%		13.8	11.8	12.9	11.1	11.0	15
大学・海外等との「共同」プロジェクトの数	数		4 2	6 2	8 2	9 3	10	5

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度実績	24年度	25年度	26年度	目標28年度
行政	新たな交流のきっかけづくりや支援をする(グローバルな視点を持つことができるような啓発活動を含む) リニア時代を見据え、付加価値を高め国際化に対応していくためのモデル的な事業に取り組む	・姉妹都市・友好都市提携、政策連携・防災協定などを締結した団体・組織の数	1	1	1	1	1
		・友好都市 市政提携 政策提携 防災協定	1	1	1	1	1
			2	2	4	6	5
			177	205	212	214	200
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項				
市民(個人・事業者・各種団体)	積極的な交流によって、新たな知識や情報などの共有化を推進し、地域づくりに役立てる。	・国際交流団体の数 ・交流をして、組織の内外に情報発信をしている団体・グループの数	人形劇フェスタにおいては、市民80名余で構成する実行委員と、運営をサポートする2,500名のボランティアスタッフにより、主体的に運営が行われ、国内外の人形劇関係者とのさまざまな交流が展開されている。				

3 平成26年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

計画どおり取り組めた
おおむね計画どおり
あまり取り組めなかった
達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

進んだ
ある程度進んだ
あまり進まなかった
進まなかった

4 平成26年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

- ・大学などの地域外の知見を地域に呼び込み、大学などと共同で事業をプロジェクト化し実践へつなげた。
- ・36回を数える「いいだ人形劇フェスタ」は、国内最大級の人形劇の祭典となっており、国際的にも人形劇の友・友好都市国際協会(AVIAMA)への参加など“飯田”を国内外に発信した。
- ・リニア本体工事及び社会基盤整備関連については、国による工事实施計画の認可やJR東海による事業説明会の開催等リニア本体の進捗状況を踏まえながら、中心線測量等と並行する形で市としてリニア駅周辺整備基本構想(案)を策定した。また、リニア将来ビジョンに掲げる「多機能高付加価値都市圏」「小さな世界都市」という将来都市像を実現するため地域ブランドの確立に向けたブランディング事業の取り組みを、シティプロモーション事業とともに取り組んだ。
- ・成果指標は横ばい傾向も見られるが、事務事業が計画どおり実施できた状況からの評価とした。

【事務事業群テーマ別の評価】

< 都市間交流の意義啓発・発信 >

[リニア推進事業]

- ・リニア本体工事関連については、10月の工事实施計画認可以降、沿線関係地区での事業説明会の開催等の事業進捗にあわせて、JR東海や長野県等の関係機関と調整を行う中で、地元のご理解をいただきながら、明かり区間の中心線測量に着手した。
- ・社会基盤整備関連は、地元や産業界の代表者、交通事業者及び県や広域連合との関係機関と協働する中でリニア駅周辺整備基本構想検討会議を組織し、基本構想の策定に向け検討を進めた。
- ・地域ブランド確立に向けた取組みは、従前のシンポジウムの開催等に加え、ファクトブック(飯田市の魅力を効果的に伝える紹介冊子)の作成や飯田ランキングの実施、さらには銀座NAGANOにおいてメディア関係者等を対象にプロモーション活動を行うなど様々な手法を加えながら、地域の魅力を見つめ直すとともに、それを効果的に発信することに取り組み、外部からも一定の評価を得た。また南信州次世代会議を立ち上げ、特に若い世代が中心となりながら、リニア時代に何ができるのかを自ら考え自ら行動する機会を設定することができた。

[人形劇のまち国際化推進事業]

- ・AVIAMAのプロジェクトである大型写真展の取材のため派遣されたプロ写真家(人形劇高等人形学院講師、シャルルヴィル・メジェール市)を、飯田で活躍している人形座、人形師等人形劇に関わる市民の皆さんに協力をいただき受け入れることによって、市民レベルでの交流を深めることができた。また、作品は、2015ピルゼン市(チェコ)を皮切りに加盟都市で巡回展示が行われるなど、国際的にも飯田市の発信ができた。

< 大学等との連携強化 >

[大学とのネットワーク構築事業]

- ・フィールドスタディなどを通じて、24大学956名の大学研究者や学生が当地を訪れた。このような学習を通じて、地域の特徴的な取組について発信しつつ外部の視点や知見に触れることで、地域の価値を改めて認識する機会となった。
- ・学輪IIDAも、31大学82名とネットワークが広がっている。全体会公開セッションでは、地方消滅時代における地域のあり方などをテーマにパネルディスカッションなどを開催し、多くの市民が大学の持つ知見や情報に触れる機会となった。
- ・域学連携の取組として、橋北地区と豊橋技術科学大学との連携による「空き家等の有効活用」、遠山地区と東京農工大学との連携による「若者を中心とした地域課題学習事業」、千代地区と和歌山大学との連携による「地域資源を活かした都市と農村の交流」、水引組合等と法政大学と連携による「地場産業(水引)の新たな可能性」などを実施し、地域課題の解決や取組の高度化に向け、大学の知見を活かしながら実践的に取り組んだ。
- ・高大連携の取組として、高校生と大学生との学習交流や、地元の高校生を対象に大学の講義を体験できる事業を実施し、高校生が大学の知見や情報に触れる機会をつくった。
- ・学輪IIDAの機関誌「学輪」を発刊し、当地域における大学連携の取組について地域内外に広く発信した。
- ・「大学院大学設置可能性調査事業」
- ・当地域における大学院大学の設置可能性の調査事業を、事業構想大学院大学へ委託し実施した。
- ・デザインの持つ可能性調査事業として、地域住民を対象にしたシンポジウムやワークショップを通じて、デザインの持つ可能性や必要性に関する議論や理解を深めた。
- ・事業構想大学院大学の有する専門的な教育研究プログラムを利用した模擬大学院大学の試行を通じて、地域住民を対象に事業を構想することができる人材の育成事業に取り組み、その可能性を見出した。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

< 都市間交流の意義啓発・発信 >

[リニア推進事業]

- ・リニア本体工事関連は、水資源をはじめとするの環境影響に関する各種調査や、建設発生土への対応等について、地元の意見を踏まえながらJR東海や県等の関係機関と調整を進めていく。
- ・社会基盤整備関連は、リニア駅周辺整備基本構想をベースに、より具体的かつ詳細な基本計画の策定を進めていく。
- ・地域ブランド確立に向けた取組みは、リニア時代を見据え飯田の認知度を向上させるために、市民の参画をいただきながら、ファクトブック(飯田市の魅力を効果的に伝える紹介冊子)のバージョンアップや飯田ランキングの継続的实施に取り組むとともに、品川地区との交流等をより多くの世代・分野に広げていく活動をさらに進めていく。
- ・リニアを活かした地域づくりを進める上では、日本国内や海外からの多様な分野の人材のネットワークが拡大し往来・交流が誘発されるよう、シティプロモーション活動と連携して、シンポジウムや首都圏においてメディア関係者等を対象に飯田の魅力を伝える活動を行い、あるいはWeb関連の取組(Webの多言語化、SNSの活用等)を強化する中で、飯田の魅力を多面的・効果的に情報発信していく。

[人形劇のまち国際化推進事業]

- ・いい大人形劇フェスタ2015では、「愛知の人形劇」を特集として取り上げ、文化芸術を通じた都市間交流を積極的に進めていく。
- ・9月に開催されるAVIAMA総会に参加し、加盟都市間の交流を行うとともに、人形劇に係る飯田の取り組み状況等を情報発信する。
- ・2018年は、人形劇フェスタ20周年、第1回人形劇カーニバルから40周年の節目を迎えることから、国内外の人形劇に取り組んでいる都市等との交流を深化し、世界フェスティバルの開催、AVIAMA総会の飯田での開催招致等について検討する。

< 大学等との連携強化 >

[大学とのネットワーク構築事業]

- ・本年度のフィールドスタディは、当地域のまちづくりの土壌となっている「結の精神」をテーマにした複数大学による共同学習の実施など、当地域の多様な分野に実践者をもつ特性を活かしつつカリキュラム(教育課程)を工夫し実施する。
- ・学輪IIDAのネットワークを活用した域学連携の取組は、遠山地区の観光振興に和歌山大学に関わっていただくなど更に連携を進めることで、地域課題の解決や魅力ある地域づくりに大学の知見を活かしていく。また、高大連携の取組は、連携高校の輪を広げつつ内容の充実を図りながら、高校生が大学の知見等に触れる機会を積極的につくっていく。
- ・学輪IIDA機関誌「学輪」の発刊を通じて、当地域における大学連携の実績や成果等を、地域内外に積極的に情報発信していく。
- ・昨年度実施した大学院大学の設置可能性調査事業での調査結果を踏まえつつ、当地域へのデザインの最高学府設置実現に向けては「デザイン系大学院大学を考える会」を中心に引き続き検討を進める。
- ・昨年度の大学院大学の設置可能性調査事業における模擬大学院大学の試行を通じて、当地域で事業を構想できる人材を育成するうえで、高等教育機関による専門的な教育研究機能の可能性や有効性が示されたことから、本年度は、事業構想大学院大学と連携して人材育成に特化した「事業創生人材育成事業」を実施する。

6 平成26年度事務事業 施策系統図

目標

施策8-1

対象
市民、行政

意図
飯田市や自分に無い知識や情報に触れ、相手に無い情報を発信する
市の付加価値を高め、国際化に対応していく

成果指標

都市間交流に参加している市民の割合
(三遠南信・中京圏除く)

大学・海外等との「共同」プロジェクトの数

都市間交流の意義啓発・発信

大学等との連携強化

リニア推進対策事業

人形劇のまち国際化推進事業

大学とのネットワーク構築事業

大学院大学設置可能性調査事業

事務事業